

施設における感染症予防  
および  
感染症早期探知地域連携システム  
(感染症神戸モデル)について

神戸市保健所

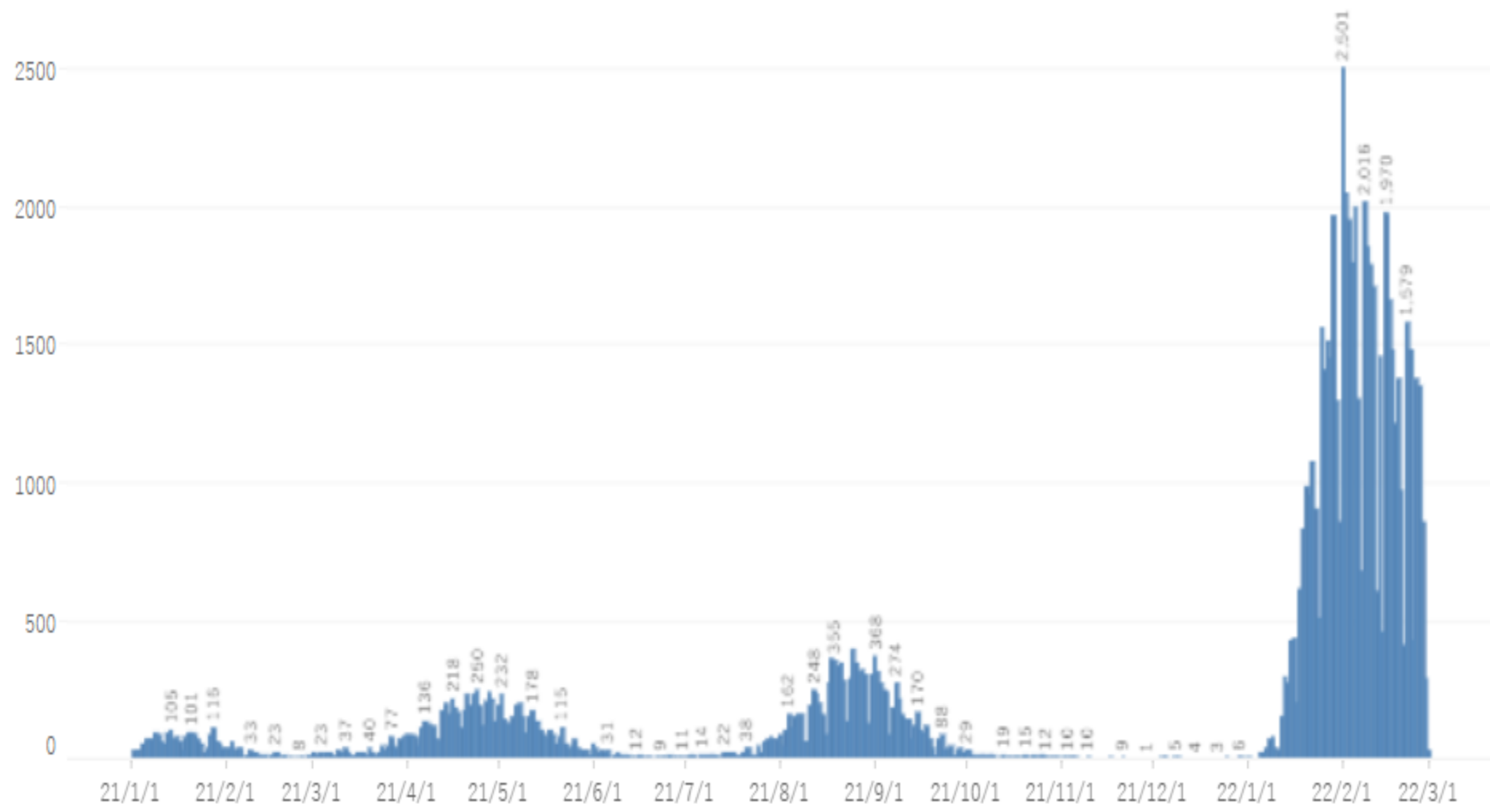
2022.3.11



# 1. 施設における感染症予防 (新型コロナウイルス感染症)



# 新型コロナウイルス感染症の発生状況



# 神戸市でのクラスター発生状況

2022年2月28日現在

発生件数	高齢者施設	障がい者施設	保育施設	学校	医療機関	企業等
第1波 合計 6	1		1		2	2
第2波 合計 8	1	1	2	1	1	2
第3波 合計 58	15	3	3	7	14	16
第4波 合計 104	45	3	5	20	16	15
第5波 合計 82	8	4	11	24	6	29
<b>第6波 合計261</b>	59	<b>11</b>	28	125	26	12

障害者施設でクラスターが発生すると・・・

- 利用者:感染予防対策が取りにくく、感染拡大しやすい
- 職員:人手不足となり、他の職員の負担が増える

# 新型コロナウイルス感染症の感染経路別の予防策

## 飛沫感染



- 目・鼻・口を守って飛沫を浴びない
- 3密を避ける



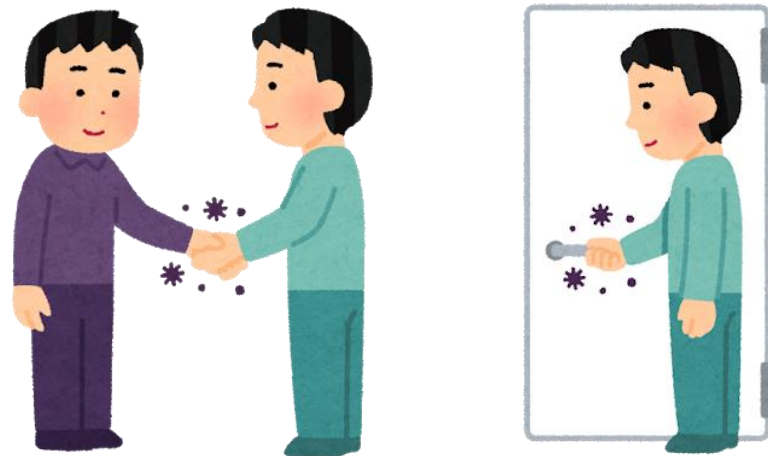
ゴーグル

or

フェイスシールド



## 接触感染



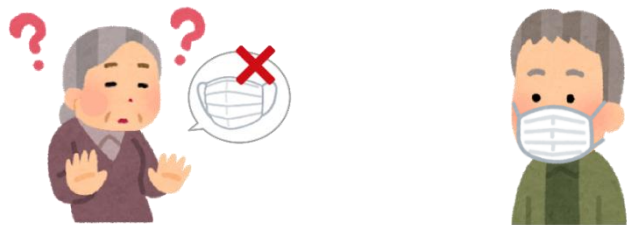
- まめな手洗い・手指消毒、正しい消毒
- ケア時は、手袋、ガウン等を着用



# これまでの事例から、気を付けておきたいこと①

## マスク

「障害者はマスクができないから」  
→できる人だけでもお願いします。



## 換気

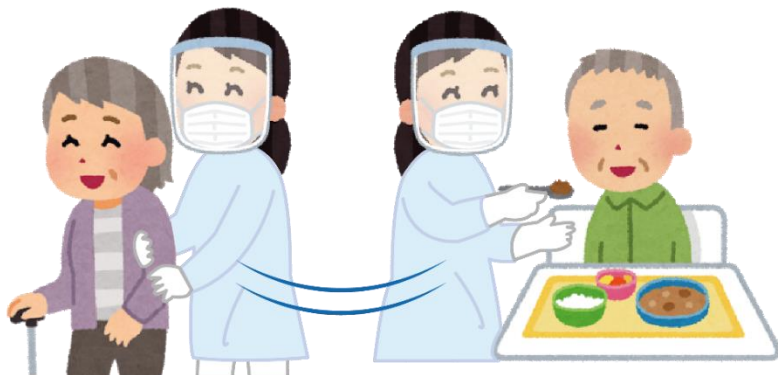
30分に1回  
換気する



「寒いからできない」



1ケア、1手洗い(手袋を変える)  
できていますか!?



## 消毒は何を用意していますか!?

- ・消毒が置かれているだけ
- ・アルコール濃度が不足
- ・「除菌」「継続的にウイルス減少する」  
などがうたい文句の消毒薬
- ・空間除菌、次亜塩素酸水に注意!



- ↓
- ・消毒用エタノール(アルコール)70%以上
  - ・次亜塩素酸ナトリウム液(0.05%)
- ※スプレータイプはウイルスを飛散させます

- ・利用者のリストがすぐ提出できない→日ごろから整備しておく
- ・送迎車、席の特定が必要→固定もしくは毎日記録する

# これまでの事例から、気を付けておきたいこと②



- ・出勤前には熱を測る
- ・体調を確認する



- ・症状がある場合は職場に相談し、早めに休む

(組織を守ることにもつな갑니다)

健康チェック表

氏名	日付	体温	備考
A	2/1	℃	
B	/	℃	
C	/	℃	
D	/	℃	

健康チェック表に、記録を残す

(体調不良者に気づくことも重要)

## 更衣室



着替え時や業務外のマスクなしの交流 **×**

## 休憩時間



コミュニケーションの取りやすい配置 **×**

## 休憩時間



対面ではなく、横並びだが会話をする  
→距離が近くなる **×**

- ・黙食し、食後はすぐにマスクを着用
- ・食事時間をずらすなどの工夫を

# 当たり前と思っていることを、再度徹底しましょう！

(実はできていないことが多いです！！)

## やっぱりマスクは大切！！



- ※原則として正しくマスクを着用していれば濃厚接触者になりません。
- ※マスクの表面を触った手は消毒していますか？

## 手洗い・消毒をする！



- ※手洗いは30秒していますか？
- ※手指消毒の目安は500円玉サイズの量で！
- ※ポンプはしっかり押し切ること！
- ※手指消毒は乾いた手にしていますか？

必要物品は2カ月備蓄をお願いしています  
かかった経費は交付金も活用できます！



## 【予防接種の実施】

- ・利用者・職員共に予防接種を勧奨する

## 【治療薬の導入】

- ・中和抗体薬（ゼビュディ）
- ・抗ウイルス薬（ラゲブリオ）
  - ※事前に施設医等が処方しているか確認しておく
  - ※医療体制の確認（土日、夜間の医師等への相談体制）

## 2. 感染症神戸モデルについて



2009年の新型インフルエンザ発生後の対応を検証し、以下の提言あり

- ①感染症の早期発見をする仕組みが必要
- ②感染症の早期探知、感染拡大防止には、区と地域のネットワークが必要
- ③地域組織の自助力、共助力の向上が必要

保健センターと地域（学校園・社会福祉施設・医療機関等）が連携して、ネットワークを築き、感染症発生の早期探知と迅速な対応により、感染症の拡大を防止し、地域全体で感染症に関する対応力の向上に努める

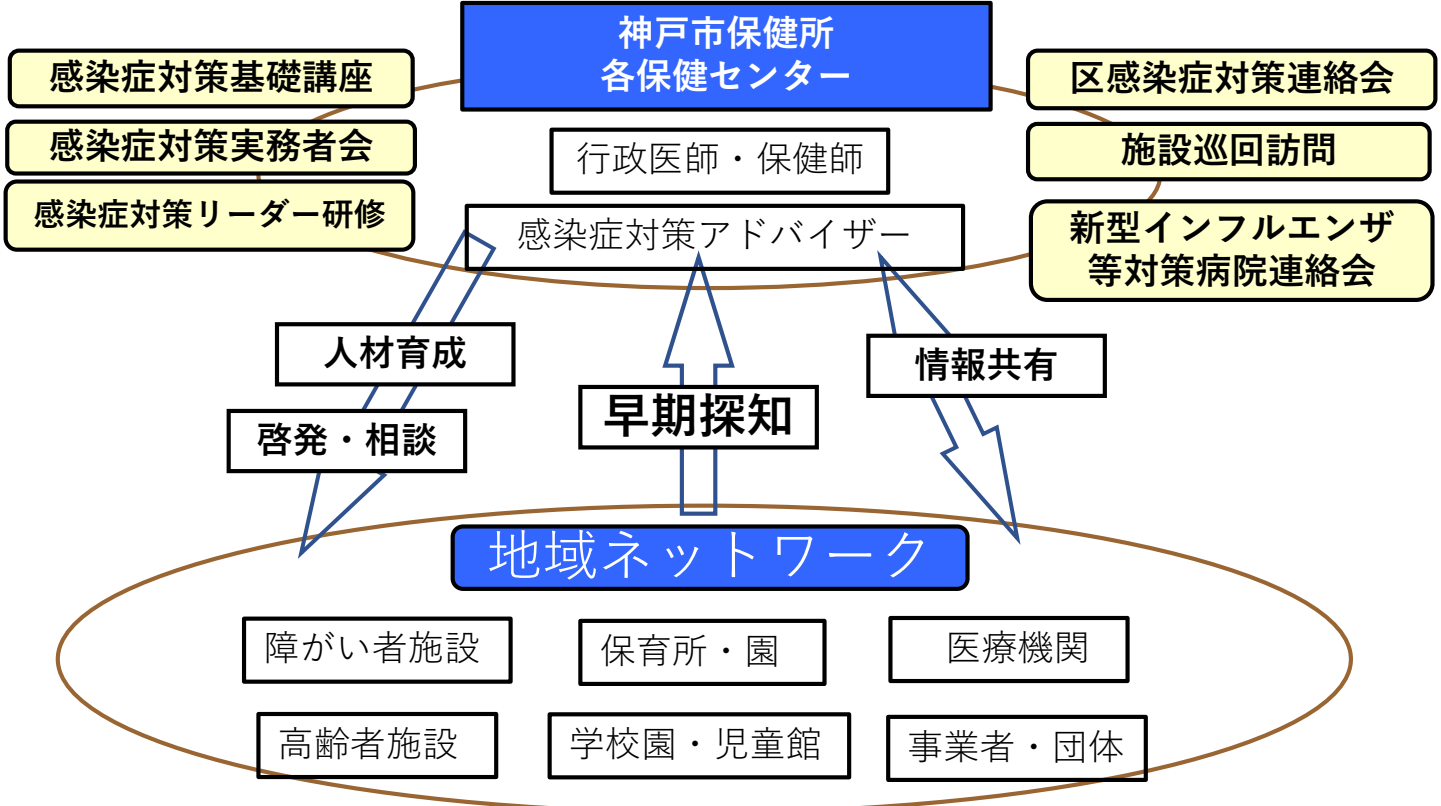
## 地域連携（平常時）

- ・保健センター保健師や感染症訪問指導員が地域施設へ巡回訪問
- ・感染症対策基礎講座や対策講座、実習
- ・区感染症対策連絡会

## 感染症の早期探知と早期対応（発生時）

- ・施設で、発熱や下痢など感染症の疑いのある職員・利用者が1週間以内に複数発生した場合は、保健センターへ感染症疑い発生状況連絡票をFAX
- ・保健センター保健師が訪問や電話などで対応

# 感染症神戸モデルー早期探知地域連携システムー



## 【2021年度から報告方法が変わりました】

FAXで保健センター → インターネット上で入力

入力の流れ

- ①「施設情報入力用アプリ」で登録
- ②「感染症発生状況連絡アプリ」で報告

## 【神戸市内の感染症情報を見ることができます】

「神戸市感染症統合情報システム」と検索

<https://kobecity-kmss.jp/>

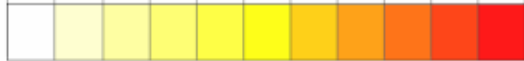
# 神戸市感染症統合情報システム

疾患名

感染性胃腸炎

凡例

0.0 2.0 4.0 6.0 8.0 10.0 12.0 14.0 16.0 18.0 20.0



定点当たり報告数 (人)

疾患の発生状況が  
区毎に表示されます

